

「第3次石狩市環境基本計画の策定について」に寄せられた意見と検討結果

【パブリックコメント実施期間】 令和2年12月24日（木）から令和3年1月25日（月）まで

【担当部局】 環境市民部環境政策課

【意見提出者】 11人

【意見件数】 40件

【意見への対応】	採用	: 意見に基づき原案を修正するもの	3件
	一部採用	: 意見の一部に基づき原案を修正するもの	1件
	不採用	: 意見を原案に反映しないもの	6件
	記載済	: 既に原案に盛り込まれているもの	2件
	参考	: 原案に盛り込めないが今後参考とするもの	3件
	その他	: ご質問・ご意見として何うもの	25件

【意見の検討経過】 令和3年1月26日～2月10日 当課及び関係部局において意見の検討及び検討結果（案）の作成
令和3年2月17日 企画課及び関係部局に合議のうえ、市長決裁にて最終決定

「第3次石狩市環境基本計画の策定について」に寄せられた意見と検討結果

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
1	<p>石狩市は花川の住宅都市地域を有し、大都市の札幌市に接している。北部の高岡、厚田、浜益の農漁業地域には美しい環境と豊富な食材に恵まれている。変化に富んだ自然は四季を通じて楽しめ、石狩湾では豊富な水産物に恵まれている。石狩湾新港の工場地帯には、食品加工や流通に係る企業があり、生産者と消費者の川上から川下のマッチした食品システムを持っている石狩市は、環境に負荷を与えない安全安心な食品を持続的に生産することを環境基本計画の基本とすることが持続可能な石狩市に必要である。</p>	<p>参考</p>	<p>本計画は、「石狩市総合計画」が目指す目標を環境面から実現する「環境分野における総合計画」であり、多岐にわたる「環境」に関する事項を総括し、5つの目指す姿（長期的な目標）を設定しております。また、各分野では個別の計画等が策定されており、様々な施策、取り組みを実施しておりますことから、いただいたご意見は重要な視点であることを認識しておりますが、本計画の基本項目には設定いたしません。</p>
2	<p>COP26では二酸化炭素排出実質0の目標年は2050年となっている。当該計画は20年計画で目標年が2040年だが、COP26に繋がる対策が必要ではないだろうか。</p>	<p>記載済</p>	<p>本計画は20年後の本市が目指す姿を設定し、その目指す姿の実現に向けた施策、方向性を示す計画となっております。本市は、昨年12月に2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すゼロカーボンシティを宣言し、脱炭素社会に向けた方向性を示しております。また、本計画の関連個別計画となる「石狩市地球温暖化対策推進計画」の中で、具体的な取り組みを設定しております。</p>
3	<p>進行管理について（2）－（3）から行政中心の推進体制と感じられる。環境対策に誰が取り組むかとの調査では、国や自治体が70%、企業が40%、個人が20%と日本での市民の環境意識と報告がある。環境保全は行政</p>	<p>その他</p>	<p>石狩市環境基本条例第3条第2項では、環境の保全及び創造は、市、事業者及び市民がそれぞれの役割に応じた責務を自覚し、三者の協働の下に自主的かつ積極的に進められなければならないとされております。本計画では、目指す姿（長期的な目</p>

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	<p>がやってくれるとの意識を変える必要があり、市民が中心となり活動し、市民一人ひとりが活動を広げることで、石狩市全体の運動となり COP26 の目標を達成できる。計画の推進体制を市民中心にすることで目標達成が可能となるでしょう。</p>		<p>標)として、5つの分野を設定しており、その中の1つ「連携・協働分野／教育・パートナーシップ」では、「全ての人が環境を学び、考え、行動することで、環境施策に協働で取り組んでいるまち」という目標を掲げています。特に、この分野は、他の4分野を取り巻く横断的な位置づけにあり、各主体がそれぞれできることを積極的に取り組み、さらには各主体同士の連携と協働により、目標に向けて様々な取り組みを実施することを目指しています。「市が」「事業者が」「市民が」と1者が中心となるのではなく、3者の連携と協働により、それぞれの目標を達成できるものと考えています。</p>
4	<p>⑧計画の推進体制ではなく、⑨ではないですか。</p>	採用	<p>⑨に修正いたします。</p>
5	<p>石狩に暮らして40年近くなりますが、子育て環境は公園も多く、手稲山も近く、大浜、銭函海岸では幼児が安心して遊ばせられ、貝や小エビ、ツバメの生息やハマボウフウなど草花もたくさんあり、山や小樽を望む海岸はユートピアでした。しかし、新港工事により、これらはすべて影を失ったと言ってよいかと思えます。西、樽川、花畔の埠頭なども土日限定などガードされていて、釣りも狭められました。豊かな海魚が少なくなった海は誰が壊したのでしょうか。海は誰のものですか。</p> <p>やせたキツネが新港をウロウロしており、住宅地域でも目にすることが多くなり、市民農園にシカやアライグ</p>	その他	<p>いただいたご意見を反映させる項目はありませんが、エネルギー対策のご意見としてお聞きしました。</p>

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	<p>マも出沒します。花川北1条の住宅庭にタカが2匹カラスを食べており、ふぶきの後で食べものがなかったのか、動物の世界のことだからしかたないのか…。ひょっとして、森や林に食べものがなくなったのか、風力発電による低周波の影響が動物の方がいち早く体を感じているか。日本でも和歌山県では低周波による訴えで、ひとりなくなっている方がいます。市は再生可能エネルギー基地、国際貿易港といますが、今一度、住民説明なく、いくらでも無制限に受け入れてはだめだと思えます。また、エネルギー基地は有事の時は怖いです。</p>		
6	<p>市民アンケートを取った結果でおよそ半数の回答者から石狩市は海の景観が素晴らしいとか、ハマナスの花が美しいなど、石狩浜、石狩湾が気に入って暮らしているという回答が寄せられたにもかかわらず、そんな石狩湾に超大型風車を多数建設することを容認している。これが市民の意見を理解し、環境の基本として進めることはとんでもない暴挙と言ってよいことでありましょう。強く環境行政に対して反するものであると意見をさせていただきます。</p>	その他	<p>本計画は「石狩市総合計画」が目指す目標を環境面から実現する「環境分野における総合計画」であり、風力発電所建設の是非を判断するものではありません。本計画では再生可能エネルギーの導入について、環境保全に配慮し、人とくらし、産業、自然が調和することを目指しています。</p>
7	<p>国は福島原発事故で放出された放射能汚染がれきを「特定一般廃棄物」としました。このことから国は自治体にがれきの受け入れを要請しました。今後も考えられ</p>	不採用	<p>本計画は20年後の本市が目指す姿を設定し、その目指す姿の実現に向けた施策、方向性を示す計画であり、放射性物質汚染対策特措法に基づく特定一般廃棄物の受け入れなど想定さ</p>

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	ることから放射能の汚染されたごみを受け入れないことを明記する。		れていない個別事案の可否を判断するものではありません。
8	公共施設での石けんの利用を無添加の石けんを利用すること。合成洗剤は生態系に有害な化学物質が含まれています。水質や下水道等に有害物質に汚染されることが危惧されますことから切り替えるようにしてください。	参考	本計画には反映しませんが、公共施設管理の1つとして、今後の参考にさせていただきます。
9	SDGs、RE100、ESG、ESDに代表される世界的目標にただ石狩市を当てはめ、世界目標を細分化したに過ぎず、5つの分野はその「いいとこどり」の総花であり、第3次計画とは、したがって観念的な期待をのべているだけで現実性がない。現実性の取っかかりがない。	その他	本計画は20年後の本市が目指す姿を設定し、その目指す姿に対する施策、方向性を示した計画となっております。その目指す姿の実現に向けた具体的な取り組みについては、本計画に関連する各分野の個別計画等の中で検討し、実施されます。
10	<p>石狩市街地、石狩湾新港、石狩湾一般海洋に立てこんでいる風力発電事業。これら石狩市内外の環境を根本から変え、山は崩れ海は死ぬような規模の破壊的現実をまず見直されなければならないだろう。騒音、低周波音に依る健康直接被害、自然環境、漁業環境、景観・レクリエーション環境がこの風力発電によって、一つ一つどう変化するのか？石狩の向こう20年の環境基本計画の基本の基本である。</p> <p>圧倒的な物量で石狩市の環境に影響をもたらす風力発電事業に対する市民の合意形成なしには、カーボンゼロ時代の第3次石狩市の環境問題にはつながらない。時期</p>	その他	本計画は「石狩市総合計画」が目指す目標を環境面から実現する「環境分野における総合計画」であり、風力発電所建設の是非を判断するものではありません。なお、風力発電事業による様々な影響については、一定規模以上の発電所は環境影響評価法及び北海道環境影響評価条例に基づき、環境影響評価を実施することとなり、調査・予測・評価により検討がなされ、それらを国が判断し事業が決定します。また、風力発電事業のみならず事業者が実施する様々な事業活動に対して、市民の合意形成は義務付けされておられません。

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	<p>は遅れても老若男女の意見集約は欠かせない。風発問題の議論がそのまま環境問題議論であり、それを根本的に話し合っこそ議論も身につく。「総合的」といいながら単なる総花的である計画素案の理由でもある。風力問題の向こう側もいろいろ書きたい市民も多いと思うが、もっと大事な問題が立ち塞がる。</p>		
11	<p>脱炭素社会を目指して再生可能エネルギーの利用促進を図ることに異存がありませんが、洋上風力発電や緑豊かな山間部に風力発電を建設することは石狩全体の環境を著しく破壊することになります。とくに石狩湾を洋上風力発電の促進地域に指定することは絶対に止めるべきです。基本計画には「環境破壊に注意して再生可能エネルギーの利用を図る」ということをもっと明確に記述すべきです。</p>	その他	<p>本計画は「石狩市総合計画」が目指す目標を環境面から実現する「環境分野における総合計画」であり、風力発電所建設の是非を判断するものではありません。なお、石狩湾沖の一般海域が洋上風力発電の促進地域に指定されるかは、市が判断するものではありません。風力発電事業に限らず事業活動を行う際には、環境に配慮することが前提であり、一定規模以上の発電所は環境影響評価法及び北海道環境影響評価条例に基づき、適切に環境影響評価を実施しています。</p>
12	<p>石狩市の歴史を市民がよく理解するために、石狩市の歴史遺産を整理し、マップなどを作成するとともに、種々の遺跡や記念碑の現地での説明板を再建する必要があります。この方向性を基本計画に明確に入れてください。石狩市の文化的な環境を向上させるための重要な視点です。</p>	不採用	<p>本計画は、石狩市環境基本条例で規定する環境への負荷、公害及び地球環境の保全などについての環境の保全及び創造に関する施策及び方向性を示す総合計画であるため本計画では設定いたしません。</p>
13	<p>国は2011年3月11日に発生した東日本大震災に伴う東京電力福島第1原発事故で放出された放射性物質によ</p>	不採用	<p>本計画は20年後の本市が目指す姿を設定しその目指す姿の実現に向けた施策、方向性を示す計画であり、放射性物質汚染</p>

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	<p>り汚染された放射能濃度 8000 Bq/kg以下の廃棄物を「特定一般廃棄物」「特定産業廃棄物」と定義づけしました。このことから、国は地方自治体に受け入れを要請しました。今後も考えられることから、P2「はじめに」4行目の部分に「海洋プラスチックごみや放射能汚染物質が世界的な問題となるなど～～」と放射能汚染物質を受けれないことを明記する。</p>		<p>対策特措法に基づく特定一般廃棄物の受け入れなど想定されていない個別事案の可否を示すものとは判断しておりません。</p>
14	<p>P26 第4章1「快適環境分野」安心・安全に⑨放射能汚染物質を入れる。</p>	不採用	<p>本計画は20年後の本市が目指す姿を設定し、その目指す姿の実現に向けた施策、方向性を示す計画であり、高レベル放射性廃棄物の最終処分場の設置や特定一般廃棄物の受け入れなど想定されていない個別事案の可否を示すものではありません。</p>
15	<p>P25③下水道とありますが上下水道ではないですか。</p>	採用	<p>上下水道に修正いたします。</p>
16	<p>近年問題になっている香害について市民周知を図ります。を P27①生活環境の保全に追記。</p>	その他	<p>本計画には反映しませんが、市は町内会回覧板を活用し市民への周知を実施しております。</p>
17	<p>洗剤を合成洗剤から石けんに替えることで環境保全につながるものと思います。ぜひ導入してください。</p>	一部採用	<p>国では、合成洗剤の環境に対する影響は洗剤メーカーや行政の取組で改善されてきていると見解もありますが、商品の購入の際には成分表示を確認することや使用量を適量にするなどの意識は大切であることから、市民及び事業者の取り組み事項に追記します。</p>
18	<p>P27 都市環境の形成の部分の緑の機能の活用を検討しますに「市民の啓発」を入れてください。樹木は環境保</p>	採用	<p>「市民への啓発を図り、緑の機能の活用を検討します。」に修正いたします。</p>

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	<p>全（CO₂削減）の観点からも大切なものと思います。秋になり落葉の時期になると落葉の始末が大変と言って樹木を切って欲しいという声が聞こえます。是非、市民に緑の機能や大切さを再認識してもらえるように働きかけてください。</p>		
19	<p>P34①廃棄物減量に「拡大生産者責任の強化を図るよう国に働きかける」を追記。本市の4Rの取り組みは評価していますが、プラスチックゴミの発生抑制は地方自治体や個人の努力には限界があり、発生抑制を推進するためには、拡大生産者責任の強化が必要です。地方自治体での取り組みには困難を期することから国に対して積極的に働きかけることを明記する。</p>	不採用	<p>地球規模での海洋汚染などを背景にプラスチックごみの発生抑制は世界的に取り組むべき課題となっており、ご指摘のように、個人や地方自治体の取り組みだけでは限界があり、「拡大生産者責任」の徹底や、国による法令、制度の整備が不可欠であると認識しております。本計画の関連個別計画となる、「石狩市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」において、リサイクルしやすい社会づくりについて、国などに対し様々な機会を通じて要望する旨記載いたします。</p>
20	<p>安心して健康的な生活はすでに陸上風力発電により脅かされています。住宅地でも低周波音の影響は出ていて血圧の上昇、ふらついてけがをした等聞いています。新港工業地区で体調を悪くしてやめる人が多いと新港に勤めている従業員から聞いています。全員が具合が悪くなるわけではありませんが、石狩市民、新港従業員の健康を考えていない計画です。石狩市でも健康調査をした方がいいと考えます。</p>	その他	<p>風力発電施設から発生する低周波音による健康影響については、環境省が設置した「風力発電施設から発生する騒音等の評価手法に関する検討会」において平成28年に取り纏められた検討会報告書で、風力発電施設から発生する超低周波音・低周波音と健康影響については、明らかな関連を示す知見は確認できないと報告されており、市が市民及び新港従業員を対象とした健康調査を実施することは考えておりません。</p>
21	<p>エコ未来会議を傍聴しましたが、風力発電について疑</p>	その他	<p>ご意見は個人の感想としてお聞きしました。</p>

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	<p>間におもっているという意見が全く聞かれませんでした。市民の健康に重大な影響を及ぼす風力発電についてほぼ話合われることなく、未来会議が終了したことや司会の方が風力発電の話題から話をそらしたこともあり、この会議について不信に思っています。</p>		
22	<p>石狩市民が気に入っている石狩の海や森林を守ってゆける具体的な基本計画を望みます。陸上にも洋上にも今以上に風力発電が建設されると、今の環境を維持することは困難であり、人口減少につながっていくものと考えられます。新港付近や図書館付近の野鳥が減少したことも風力発電の影響だと考えます。このような調査も石狩市の環境を守るために必要です。もっと環境を守るための調査・研究・持続的な活動などの基本計画が必要です。</p>	その他	<p>本計画は「石狩市総合計画」が目指す目標を環境面から実現する「環境分野における総合計画」であり、風力発電所建設の是非を判断するものではありません。また、風力発電事業の実施にあたっては、環境影響評価法に基づき、環境影響評価の手続きが行われ事業が進められていくものと考えております。</p>
23	<p>事業者の言う「再生エネルギーのポテンシャルが高い」という文言で、素晴らしい石狩湾の恵み・環境・風景を奪う、失うことは納得のいくものではありません。人口は石狩のみならず、国内においても今後減少していくことは明らかであり、伴い電力消費も減っていくのは目に見えています。再生可能エネルギーを全否定するものではありませんが、「再生エネルギーはCO₂を排出しないクリーンエネルギー」というのは納得いくものではありません。製造から設置・廃棄までを考えると太陽光及び風</p>	参考	<p>今後、新しいエネルギー施策を考えていく際の参考とさせていただきます。</p>

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	力発電の機器・装置も約 20 年間後の処分方法も未だ確立されていません。		
24	木質系バイオマスではカーボンニュートラルの特性をうたっていますが、いかに豊かな森林資源があっても、樹木の成長は伐採には追いつかず森林資源を活用した木質バイオマスの推進は不可能と思われます。	その他	未利用材の有効活用と森林の循環利用を基本とした、広域的な取り組みを推進します。
25	関連の産業やそれに伴う雇用など、地域活性化に寄与する取り組みとして推進していく必要がある。とありますが、工事期間中は雇用も多数あると思います。しかし設置後は、定期点検などで限られた人数の雇用しかないのはあきらかです。また国の進める IT 化により雇用状況は期待できるほどのものではなく、厳しいものとなると思われます。このことから関連の産業やそれに伴う雇用など、地域活性化は思うほどには望めないと思います。「エネルギーの地産地活」というが、石狩市内のエネルギー量をどのくらい想定しているのかを数字で示していただきたい。	その他	日本風力発電協会の試算によれば、2030 年までに洋上風力発電が 1,000 万キロワット導入された場合、累計で 13 兆円から 15 兆円の経済効果が見込めるとされており、本市においても事業が行われた場合には、裾広く関連産業への波及効果や地域の新たな雇用創出などに期待が持てるものと認識しております。また、市内のエネルギー量の想定は、本計画では示しません。
26	P4 2) 石狩水素戦略構想の部分で、2017 年 11 月苫前前で NEDO が行っていた風力発電から水素を作る装置で爆発が起きたと感じています。その後検証などは行われましたが、未だに安全に操業実験ができたとの報告はない。またこの装置を稼働するにあたり莫大なエネルギー	その他	石狩市水素戦略構想は、再生可能エネルギーを活用した水素の製造及び貯蔵、広域供給の拠点化、港湾エリアの魅力向上、水素関連産業の石狩湾新港地域への集積などを目指しているものです。現在は本市における水素社会構築に向けた課題や効果などの検証を進めている段階であり、その中で安全に操業で

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	を必要とします。貴重なエネルギーをエコに安全に、大切に活用していかなければならないと思う。		きるかどうかの技術的なことも含め検討しています。
27	P4 3) 豊かな地域資源の部分で農水産業の安心・安全・新鮮な地場産品の政策と提供は住民として嬉しいことです。しかし、現在でも林立する陸上大型風力発電機及び洋上大型風力発電の計画。石狩の漁協の漁業権は守られるのでしょうか。洋上風車の設置により海中の環境も変化し鮭などは取れなくなる、多くの海中生物に影響が出ると予測している専門家もいます。農地には太陽光パネルが増え農業は守られるのでしょうか。(太陽光パネルの下は電磁波が強く健康被害も心配です)	その他	本計画は「石狩市総合計画」が目指す目標を環境面から実現する「環境分野における総合計画」であり、風力発電所建設及び太陽光パネル設置の是非を判断するものではありません。
28	P5 20年後の目指すまちの姿と環境像の部分で、自然豊かな小さな街、少ない人口の石狩市が、どうして世界をリードするエネルギー転換・脱炭素社会を目指すのでしょうか。市民の健康、安心して暮らせるまち、身の丈にあった政策をお願いいたします。	その他	本計画は「石狩市総合計画」が目指す目標を環境面から実現する「環境分野における総合計画」であり、環境像は20年後の石狩市の姿をイメージしているものです。また、本市は2050年までにゼロカーボンシティを目指すことを宣言し、その中でエネルギーの転換を含めた脱炭素社会を目指しております。
29	市民団体が「市民が健康で安心して暮らし続けるために、風力発電による健康被害の調査の検討、提案・依頼」をしても「事業者との話し合いの場を働きかけてほしい」と願い出ても、石狩市からは、道や国で許可されたもの(国のエネルギー政策)というように受け取れる回答しか得られませんでした。乙部町は住民の不安や意見を、	その他	本計画は「石狩市総合計画」が目指す目標を環境面から実現する「環境分野における総合計画」であり、風力発電所建設の是非を判断するものではありません。

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	<p>市職員はじめ議員、住民とともに検討し、風力発電建設にN0の結論を出しました。石狩市長、市職員、議員も政策に賛同する意見ばかりを伺うばかりではなく、市民主催の様々な講師を招いての学習会などに参加し、ともに学び考えていただきたい。石狩の未来を真剣に考え学習を重ねて行動している住民の提案や意見・質問を真摯に受け止めて、協同でよりよいまちにしていくことを切に願います。</p>		
30	<p>P7「自然環境分野」生物多様性の部分で、素晴らしい石狩を20年後にも残していこうという気持ちが伝わってきます。しかし、市の第3次基本計画のエネルギー政策を推し進めていくのであれば「豊かな自然と多様な生物、そして人とが共生するまち」を守っていくことは不可能なことと感じます。豊かな自然と多様な生物、そして人を守り維持していく具体的な政策を示してください。</p>	不採用	<p>本計画は、国の「第五次環境基本計画」の中で提唱されている地域循環共生圏の理念を基に、市域にある豊かな地域資源を大いに活用し、自然と人との共生、地域間との共生を図りながら、持続可能な街であり続けることを目指しています。エネルギー施策や生物多様性に関する施策の具体的な政策は、関係する個別計画で検討し示されます。</p>
31	<p>P10 ⑧(3)ここに住民という文言が入っていません。住民との連携は必携です。住民あつてのまちなのではないでしょうか。</p>	記載済	<p>同ページ(1)に、「市、事業者及び市民の3者がそれぞれの責務に応じた役割分担と協働により」と記載しております。</p>
32	<p>「コロナ禍以前には戻れない」と言われています。これはとりもなおさず「持続可能」ではなかったことを示しています。果たしてこれから20年後の世界は、どうなっ</p>	その他	<p>世界ではコロナ危機からの経済回復に向けた投資を気候変動対策にも貢献し、経済成長と両立しながら大幅な二酸化炭素削減を目指すグリーンリカバリーの考え方が重要視されてお</p>

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	<p>ているのでしょうか。新型コロナウイルス感染症を見据えた社会環境を組み込んだ「環境基本計画」の思考をする必要があると思います。昨今の巨大な風力発電の開発事業は、持続可能ではない開発そのものです。今一度立ち止まって、生物多様性に配慮し、石狩湾の漁業や野生動物に取り返しのつかない打撃を与えてしまうことを直視すべきだと考えます。海にも陸にも風車だらけの石狩は「地域の豊かな資源を活かし 未来へつなぐ 持続可能な共生都市 いしかり」にはならないと思います。絵に描いた餅です。</p>		<p>り、本計画はその考えを取り入れながら、本市における環境・経済・社会の課題解決を目指し、20年後の本市が目指す方向性を示したものとなります。</p>
33	<p>市民会議（いしかり eco 未来会議）のメンバー募集対象とアンケート対象者が同じであり、発言の機会が同一人物（会社）に2重に与えられているように思い、不公平だと思いました。第3次石狩市環境基本計画（素案）は、業務委託をした事業者アンケート調査票作成分析、市民会議をファシリテートし、少数の石狩市民が参加してワークショップ形式での検討を重ね、その内容をもとに作成されました。不確かな未来を見極めるはずの目がファシリテーターに差配されているような気がしました。このようにしてまで環境基本計画が作られる意味があるのか、と思います。</p>	その他	<p>ご意見は個人の感想としてお聞きしました。</p>
34	<p>石狩市環境審議会の資料作成は、第3次石狩市環境基</p>	その他	<p>石狩市環境審議会において使用する資料は、市がその種類及</p>

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	<p>本計画策定業務を委託された事業者が作成すると仕様書にはありますが、どの範囲のものをどこまで作成していたのか教えてください。</p>		<p>び内容について指示し、市の監修のもと委託事業者が原案を作成しています。</p>
35	<p>私は石狩市の環境活動員に登録して、石狩市の職員と一緒に黄金山、マクンベツ、濃屋、左股沢、などの植物調査に参加したことがありました。「黄金山」(旧)、「石狩川マクンベツ湿原ガイド」のリーフレットの作成にも加わりました。専門研究者がいない活動は、それなりの評価でしかないことはわかっていますが、市役所と連携したつもりが、いつのまにか職員が替わり、活動そのものがなかったことになってしまいました。パートナーシップとは難しいものだとつくづく思います。市役所は権力を持っています。一人の市民はちっぽけな力しかなく市役所に対して非力です 市役所の施策と異なる、市民の意見をつぶさないでください。市民が離れます。</p>	その他	<p>ご意見は個人の感想としてお聞きしました。</p>
36	<p>「脱炭素化に向けた取組」と「豊かな自然の維持」が両立しないことに自然エネルギーの問題がある。このままでいくと、「脱炭素化に向けた取組」として風力発電所が今後林立することになるが、その風力発電所が豊かな自然である海洋や森林を破壊することになる。これは、子孫に残すべき石狩ではない。「脱炭素化に向けた取組」と</p>	その他	<p>風力発電事業に限らず事業活動を行う際には、環境に配慮することが前提であり、一定規模以上の発電所は環境影響評価法及び北海道環境影響評価条例に基づき、環境影響評価を実施しています。本計画は「石狩市総合計画」が目指す目標を環境面から実現する「環境分野における総合計画」であり、風力発電所建設の是非を判断するものではありません。また、コロナ危</p>

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	<p>「豊かな自然の維持」が両立しておらず、自然エネルギーとして風力発電所の建設を推進するのはやめるべきである。結局「脱炭素化に向けた取組」と「豊かな自然の維持」が両立させるには、風車の建設ではなく、家庭や企業における省エネしか方策はない。しかし、電気製品の技術革新のみでは限界がある。つまり、省エネを達成するには、経済を縮小させることを覚悟しなければならないが、その覚悟はあるのか。電気を使いたいだけ使うという人間の勝手が環境破壊を引き起こしているという現実に目を向けるべきではないか。電気を使うだけ使っておきながら「脱炭素化に向けた取組」と「豊かな自然の維持」を唱えるのは虫が良すぎる。</p>		<p>機からの経済回復に向けた投資を気候変動対策にも貢献し、経済成長と両立しながら大幅な二酸化炭素削減を目指すグリーンリカバリーの考え方が重要視されており、本計画はその考えを取り入れながら、本市における環境・経済・社会の課題解決を目指し、20年後の本市が目指す方向性を示したものとなります。</p>
37	<p>全国で風車騒音による健康被害が起こっている。科学的根拠がないと言っても、実際に被害者が厳然として存在する。予防原則に則って、風力発電所の建設はやめるべきである。石狩市民や札幌市民はモルモットではない。</p>	その他	<p>本計画は「石狩市総合計画」が目指す目標を環境面から実現する「環境分野における総合計画」であり、風力発電所建設の是非を判断するものではありません。</p>
38	<p>「脱炭素化に向けた取組」は地球温暖化の原因である二酸化炭素を減らすことが中心になると思われるが、そもそも人為的な二酸化炭素の増加では地球温暖化を説明できないという事実を市として把握しているのか。「国が知っているから正しい」、「IPCC（国連気候変動に関する政府間パネル）が言っているから正しい」という言い訳は</p>	その他	<p>本計画策定にあたり、市は世界的潮流や国が進めている施策と同じ方向性で取り組む必要があると判断しております。</p>

No.	意見の要旨	検討結果	検討内容
	<p>思考停止であり、通用しない。彼らが 100%正しくはない。彼らが正しいのであれば、日本で福島原発事故は起こらなかったし、IPCC が予測を間違えることもなかった。市はこの基本計画を掲げる前に、人為的な二酸化炭素排出による地球温暖化説に疑義を唱える東京大学名誉教授の渡辺正氏などの主張に触れるべきである。その上で、「脱炭素化に向けた取組」は風力発電所の建設によってではなく、省エネによって実現すべきである。人為的な二酸化炭素排出による地球温暖化説を唱えるのであれば、市は科学的な知見を示すべきである。市は国の下部組織ではない。</p>		
39	<p>風車の野放図な建設は廃棄物を増やすことになり、「廃棄物減量」に完全に矛盾している。「廃棄物減量」に逆行しているので、風力発電所の建設はやめさせるべきである。</p>	その他	<p>本計画は「石狩市総合計画」が目指す目標を環境面から実現する「環境分野における総合計画」であり、風力発電所建設の是非を判断するものではありません。</p>
40	<p>「森林による二酸化炭素吸収」について言及しながら、陸上風力発電所を建設し、森林を破壊して「森林による二酸化炭素吸収」を妨げている。明らかに矛盾している。陸上風力発電所の建設を中止させるべきである。</p>	その他	<p>本計画は「石狩市総合計画」が目指す目標を環境面から実現する「環境分野における総合計画」であり、風力発電所建設の是非を判断するものではありません。</p>